

# 平成23年度予算を可決 新総合計画の実現に向けて始動

## 一般会計予算 74億5919万円

平成23年第1回熊野町議会定例会(3月)に、平成23年度の予算案が提出された。審査に当たっては、議員全員で構成する「予算特別委員会」を設置し、町当局から予算の概要や各事業に関する説明を受けた。委員会では様々な質疑が交わされ、委員会終了後に再開した本会議では、委員長報告のとおり、全ての各予算案を原案どおり可決した。各部門における主要事業の一部を紹介。

区分		平成23年度予算額	対前年度比
一般会計		74億5,919万円	2.0%
特別会計	国民健康保険事業	33億919万円	1.9%
	公共下水道事業	10億5,305万円	4.5%
	後期高齢者医療介護保険	3億9,849万円	▲1.3%
	上水道事業	17億9,471万円	4.3%
収益的支出	4億7,921万円	▲0.1%	
	資本的支出	2億5,845万円	18.5%

### 住民との協働による信頼と連携の地域経営を確立(総務部門)

今年3月の筆の日におけるK-JINの様子

- まちづくり交流拠点「K-JIN」の運営など、定住交流人口の拡大に取り組む  
3,207万円 (定住交流促進事業)
- 町に収納される税等の一部をコンビニで納付できるようにする  
107万円 (コンビニにおける公金収納委託事業)

### 暮らしの基盤が整ったまち(建設部門)

- 熊野団地から出来庭地区に連絡する道路を整備  
4,606万円 (国庫 町道出来庭川角中央線新設事業)
- 深原地区準工業地域入口まで道路を延伸  
2,572万円 (国庫 町道深原公園線新設事業)

### 地域力の強化(民生部門)

- 老朽化した既存の防犯灯をLED化。  
1,100灯分を交換予定 2,800万円 (防犯対策事業)
- 小・中学生を対象とした入院医療費の助成や乳幼児医療費の助成など。  
1億4,505万円 (福祉医療費公費負担事業)

LED化が進む防犯灯  
従来の蛍光灯に比べ、電気料及び二酸化炭素の排出量が削減される。また寿命が約5倍と長いので電球の交換費用も削減される。

### 地域力の強化(教育部門)

- 学力向上対策として、あらたに町独自の定期的な学力検査の実施など。  
415万円 (小・中学校教育振興事業)
- 各学校へ相談員や支援員などの人的な支援を行う。  
2,095万円 (学校支援臨時的事業)

▲小・中学校の学力向上を目指す

### 予算特別委員会での質疑

#### 質疑の一部を紹介!

- Q** 出来庭地区のK-jinとアッセの熊野筆ショップの現況、今後の見通しは。  
**A** K-jinは、昨年9月にオープンし、約3千人の来客で20万円程度の売上げがあった。産業観光推進を図るもので、平成23年度の状況を見ながら今後検討していく。
- Q** 熊野筆ショップは、昨年7月にオープン。2月末で224日間の営業、約2千人の購入者があり、1日平均の売上げが約5万8千円あった。5万円あれば補助なしで営業できる見通し。  
**A** 福祉医療費負担事業の町における単独事業分は、将来的に続けられるのか。
- Q** 乳幼児医療の町単独分としては、年間約1300万円を要している。就学前の子どもに対する子育て支援として、今後も続けていきたい。  
**A** 町独自の学力検査を行うことが、学力の向上につながると思えないが。
- Q** 教育には時間がかかる。試験を実施して、子供達の現況を把握・分析し、補習なども学校と調整することで、子供達をフォローしていきたいと考える。  
**A** 有害鳥獣対策として、ヌーリアへの対策は。
- Q** 平成23年度に箱根を購入予定。貸し出しを考えている。  
**A** 農業参入企業に600万円を補助するところがあるが、その詳細は。
- Q** 企業1社が新宮地区に0.4haの面積で、ほうれん草や玉ねぎなどの野菜を営農するもので、補助対象は主に機械設備などである。今後の農業経営の一つの形として取り組んでいきたい。